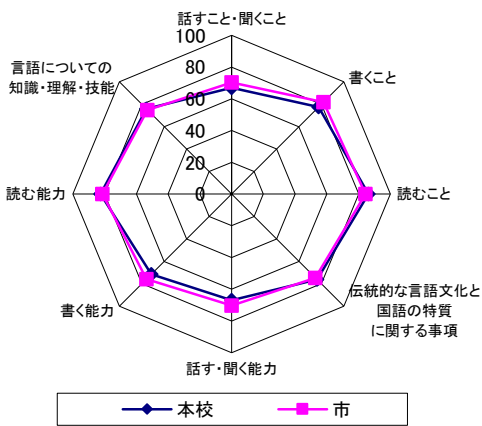


宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.9	70.3	68.2
	書くこと	77.4	81.7	80.6
	読むこと	86.2	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.1	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	66.9	70.3	68.2
	書く能力	71.5	76.0	74.1
	読む能力	82.6	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	75.9	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

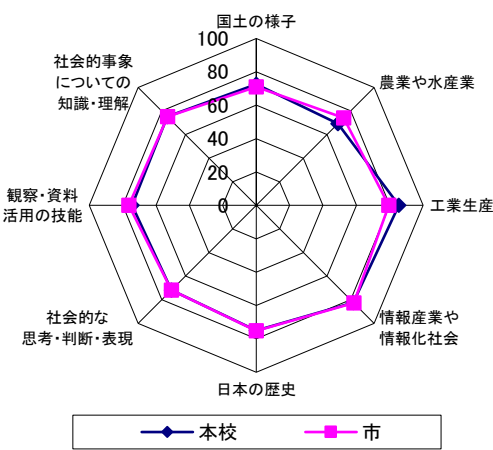
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・校内正答率が66.9%で、市の平均正答率をやや下回った。 ○話合いの内容について、与えられた情報を読み取り、話合いの観点をふまえて、意見をひとつにまとめて提案する文章を記述する設問の校内平均正答率は、市の平均正答率をやや上回った。 ●話合いについての設問では、話合いの観点到基いて情報を関係付ける設問の校内正答率が低く、意見を関連付けて考えることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・授業中だけではなく、普段の生活の中でも話をしっかり聞く習慣を身に付けさせ、話を聞くこと大切さを引き続き指導していく。 ・各教科や学級活動、委員会活動などの話合い活動において、自分の考えや友達の考えをメモをとったりするとともに、考えの関係性を考えられるように、聞き方のポイントを指導していきたい。
書くこと	・校内正答率が77.4%で、市の平均正答率をやや下回った。 ○指定された長さで文章を書いたり、グラフから読み取った事実を書いたりする設問の校内正答率は80%以上と高い。 ●2段落構成で文章を書く設問の校内正答率は市の平均正答率を大きく下回った。段落を考えて文章を書くことに課題が見られる。	・記述式の解答の仕方にも慣れてきたことが、解答類型から分かる。授業中に書く活動を意識して取り入れた成果だと思われる。引き続き書く活動を授業の中で積極的に行いたい。 ・字数を考えて文章を書くことも、これまで意識して授業の中で意識して取り入れてきた。今後も引き続き指導していきたい。 ・段落を考えて文章を書くことを意識させるために、例文を試写する活動を取り入れたり、段落を指定して作文を書いたりする活動を積極的に行いたい。
読むこと	・校内正答率が86.2%で、市の平均正答率をやや上回った。 ○登場人物の心情を読み取る設問や文章の内容を正確に読み取る設問の校内正答率は90%以上と高い。 他の設問も市の平均正答率を上回っている。 ●場面の描写を読み取る設問の校内正答率は、市の平均正答率とほぼ同じになっている。	・朝の読書などの読書指導や音読指導を引き続き行っていく。 ・登場人物の心情を読み取ることができてきているので、今後は場面の描写の読み取りに時間をかけて指導をしていきたい。 ・物語文だけではなく説明文にも積極的に触れさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・校内正答率が76.1%で、市の平均正答率をやや上回った。 ○漢字の読みは、市の平均正答率とほぼ同じ、漢字を書く設問の校内平均正答率は、4問すべて市の平均正答率を上回った。中には12ポイント以上上回った問題もあった。 ●文の構成(連体修飾語)についての設問の校内正答率が59.7%で市の平均正答率を下回った。文法の理解に課題が見られる。	・漢字練習に継続して取り組ませた成果が表れたと思われる。引き続き、毎日漢字練習に取り組ませていきたい。 ・文の構成について、主語・述語だけではなく、修飾語についても意識して指導していきたい。また、文法の問題にも多く触れさせていきたい。 ・国語辞典や漢字辞典の使い方についても復習していった。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.6	71.0	69.4
	農業や水産業	69.4	74.0	69.0
	工業生産	85.5	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	82.3	82.8	88.7
	日本の歴史	75.0	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	71.8	71.9	67.2
	観察・資料活用技能	74.4	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	75.2	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

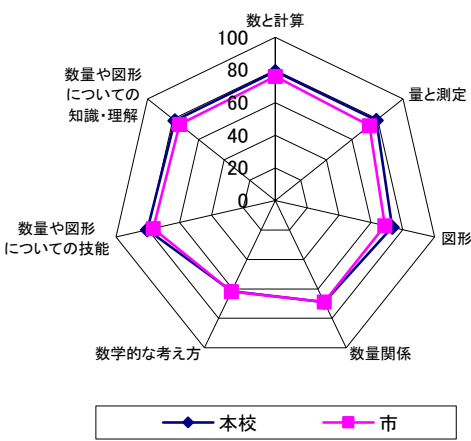
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均と同程度である。 ○国土の主な山脈や川・平野の名称についての正答率が高い。 ●自然災害が起こった際の資料を読み取って考えを表現する問題では、正答率が低い。	・資料集や地図帳等を活用し、資料の見方を指導していく。資料から読み取れることを、さまざまな視点から考えられるような工夫を図っていきたい。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○食の安全確保のための工夫について考える問題では、正答率が高い。 ●食糧確保における問題について資料を読み取って考える問題では、正答率が低い。	・日本の食糧生産についての問題点を確認するとともに、日常的に課題意識をもって考える習慣をつけるようにしていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。 ○工業製品を工業の種類別に分類・整理する問題では、特に正答率が高かった。	・引き続き、他教科との関連を図りながら資料をもとに考察したことを表す活動を多く取り入れていきたい。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均と同程度である。 ○テレビ・ラジオ・新聞などの情報手段について理解できている。 ●情報ネットワークについての考察は、正答率がやや低い。	・学活・道徳・他教科との学習とも関連させ、新聞・テレビ・インターネットなどさまざまな情報産業の特徴やそれらの情報の利用の仕方について考える機会を多く取り入れていく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と同程度である。 ○鎌倉幕府に関する資料や江戸幕府の大名配置に関する資料を読み取る問題については、正答率が高い。 ●十七条の憲法や明治時代の人物についての理解がやや低い。	・デジタル教材や図書資料などを活用し、資料の読み取りをさらに深めていきたい。 ・復習プリント等を使い、歴史的事象の知識の定着を図りたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.1	76.1	73.5
	量と測定	79.0	73.6	70.1
	図形	73.4	68.8	66.6
	数量関係	69.0	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	61.5	61.8	54.9
	数量や図形□についての技能	80.3	76.7	73.2
	数量や図形□についての知識・理解	78.5	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

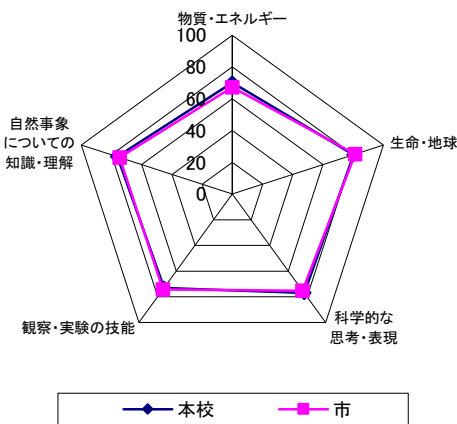
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・校内平均正答率が79.1%で、市の平均正答率を3ポイント上回った。 ○基本的な計算問題(小数の乗法・除法計算、分数の加法・乗法・除法)など、自分で計算して答える問題の正答率が高い。 ●分数の除法の意味の理解を問う問題や、問題文から正しい答えを求め理由を説明する記述式の問題の校内正答率は市の平均正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業や朝の学習タイム・家庭学習などで、確かな計算力が身に着くように、計算練習を継続して行った成果の表れと思われる。今後も引き続き児童の実態に応じた指導を行い、基本的な計算力の定着を図っていきたい。 ・文章問題の意味を読み取り、答えを説明する学習活動を積極的に授業に取り入れていく。
量と測定	・校内平均正答率が79.0%で、市の平均正答率を5.4ポイント上回った。 ○すべての設問の校内正答率が市の平均正答率を上回った。中には9.7ポイント上回った設問もあった。	・単位量当たりの大きさや速さについては、復習を繰り返し行った成果が表れたと思われる。 ・面積と体積については、多くの問題に触れさせることで、問題になれたことも高い正答率につながった一因かと思われる。 ・今後も繰り返し復習に力を入れて指導をしていきたい。
図形	・校内平均正答率が73.4%で、市の平均正答率を4.6ポイント上回った。 ○すべての設問の校内正答率が市の平均正答率を上回った。中でも3辺の長さを測って、合同な三角形を作図する設問の校内正答率は95.2%と高い。 ●線対称な図形の対応する点を見付ける設問の校内正答率は市の平均正答率を8.6ポイント上回っているが56.6%と高くはない。	・作図の指導については、図形の定義や性質をもとに正しく作図ができるよう、繰り返し指導していく。 ・対称な図形については、線対称・点対称の性質を正しく理解させるとともに、正しく作図ができるよう指導していく。
数量関係	・校内平均正答率が69.0%で、市の平均正答率とほぼ同じだった。 ○反比例についての表を読み取り、値を求める設問の校内正答率は、市の平均正答率を15.2%と大きく上回った。 ●割合と比について、答えを求める方法を説明する設問校内正答率は市の平均をやや下回った。解答が記述式の問題に課題が見られる。	・比例・反比例については、図や表に表したり、図や表を読み取ったりする活動を多く取り入れ、理解を深め、数量の関係を説明する力が身に付けられるような指導を工夫していく。 ・割合や比については、基準量・比較量・割合の関係を正しくとらえられるように、引き続き丁寧に指導していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.2	67.3	64.4
	生命・地球	80.3	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	77.0	75.3	72.6
	観察・実験の技能	73.2	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	76.1	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・校内平均正答率が70.2%で、市の平均正答率を約3ポイント上回った。 ○ミョウバンの水溶液から析出したミョウバンを取り出す方法を「ろ過」と定義する問題では、市の平均正答率を15ポイント以上上回った。 ●塩酸の性質と塩酸を熱したときの変化に関する問題では、市の平均正答率を4ポイント上回ったものの、全設問の中で最も低い正答率だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・学習で身に付けた科学的な言葉や概念を使用して、自然の事物・現象について考察したり説明したりする機会を設け、科学的な見方や考え方を養い、知識を習得できるようにする。 ・実験を行う際、教師が使用の目的や器具の用途を明らかにし、具体的な操作方法を示すとともに、全ての児童が安全に留意しながら、実際に操作を行えるようにする。
生命・地球	・校内平均正答率は80.3%で、市の平均正答率を約1ポイント下回ったが、80%を超えた。 ○ウサギと人の消化管を比較する問題や月の見え方を電灯とボールで調べる問題、生物の「食べる」「食べられる」関係の問題での正答率は、90%を超えていた。 ●葉にでんぷんがあるかどうかを調べる問題の正答率が低く、植物のつくりとはたらきの観察・実験の技能に課題がある。	・実験のデータの取り方や処理の仕方について十分に指導するとともに、表やグラフにまとめた観察記録や実験結果などのデータと現象とを関係付けて考察する活動を、引き続き行うようにする。 ・日頃から身の回りで見られる自然や日常生活の事物・現象について、これまでに学習した内容を適用して考えられるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の充実	・家庭学習の手引の活用 ・家庭学習強化週間の実施による啓発と保護者との連携 ・自主学習の内容の充実	アンケートの結果から、全体として、下学年から上学年へと学年が上がるとともに家庭学習への取組についての数値が低くなっていく傾向がある。ただし、学年によっては、計画的な家庭学習や復習などの質問で、肯定割合の高い学年もあった。
基礎・基本の定着	・朝の学習タイムを活用した計算の学び直しあ(個別課題) ・具体的なめあての提示と振り返りによる分かるを実感できる授業の実践 ・家庭学習での継続した漢字・計算の反復学習	・国語では、漢字の読みは、市の平均正答率とほぼ同じ、漢字を書く設問の校内平均正答率は、4問すべて市の平均正答率を上回った。中には12ポイント以上上回った問題もあった。 ・算数では、基本的な計算問題(小数の乗法・除法計算、分数の加法・乗法・除法)など、自分で計算して答える問題の正答率が高い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・家庭学習については、強化週間等の取組を継続しながら、内容の充実と学年差の改善にも取り組んでいく。
- ・書く活動の強化を継続しながら、より主体的・対話的で深い学びに結びつくような単元・授業の展開を工夫していく。
- ・引き続き、基礎基本の定着を図るよう、授業、朝の学習、家庭学習等を活用した効果的な指導を工夫していく。